

令和3年度第1回 若葉区支え合いのまち推進協議会
(書面開催) 議事要旨

I 委員からの意見

議事(1)

「令和2・3年度若葉区支え合いのまち推進協議会正副委員長の互選について」

<推薦者候補者の集計>

委員長 【1名】

- 25票 事務局一任
- 6票 津田正臣委員(地域福祉活動者)
- 1票 縫部隆彦委員(社協結・みつわ台地区部会)

副委員長【3名】

- 29票 事務局一任
- 1票 縫部隆彦委員(社協結・みつわ台地区部会)・藤川徳治郎委員(民生委員児童委員協議会)・清水節雄委員(老人クラブ)・1票 平井利一委員(植草学園大学)・布施正勝委員(地域福祉活動者)

<意見等>

- ◆ 従来、民生委員との連携が希薄であったため民生委員児童委員協議会協からの副委員長は是非とも推薦したい。
- ◆ 福祉活動に直接携わるメンバー以外に、福祉を直接受ける側および社会福祉の大所高所からの意見も聞き具体的に反映していくことが必要では。運企委員に、大学関係者および老人クラブ代表者も参加すれば、活性化が図れる。
- ◆ コロナ禍で活動が制限されている。これまでの経緯をふまえて現任の方に継続をお願いしたい。
- ◆ 第5期計画は、4期計画の内容・取組状況などの結果と反省を含めて検討されるべきであり、ここで正副委員長を交代させることは賛成できず、推進協活動の充実・

発展の観点から現状が是と判断する。

- ◆ 5期の選任については、企画委員のメンバーを含めた一新も念頭において今後の運営を配慮してはどうか。
- ◆ 委員の補欠補充の際は、計画の実行の担い手である地区部会長の中からの選任を優先されるよう提案する。

議事（2）

「第4期若葉区支え合いのまち推進計画（平成30年度～令和2年度）の進捗状況について」

<コロナ禍での活動に関して>

- ◆ コロナ禍で制約がある中、各エリアにて活動されており地域の皆様のご苦勞を感じ取れた。
- ◆ 各地区部会ともコロナ禍での対応に苦慮している様子が伺えた。
- ◆ コロナ禍で安易に活動を中止せず、色々と工夫をしてきた姿が見られ喜ばしい。工夫によって人と人との繋がりが保っていきける。
- ◆ 各地区取組テーマは異なっているが、新型コロナ感染症を防ぎながら重点取組項目を達成されたことは推進計画が地域に定着していることだと思う。
- ◆ コロナ禍で活動が制限される中で従来の委員会活動を見直し①人との接触を避ける②制限下で出来ることをする、という発想で活動してきた（コロナ禍における好事例として取り上げてもらっている）。
- ◆ 第4期計画はコロナ禍の影響により多くの活動を中止せざるを得ない状況であった。しかし、日々の生活の中で支援を待っている高齢者も多く、当部会ではコロナ対策に十分配慮しながら、委員相互の創意工夫により実施した活動もあった。
- ◆ どの地区部会もそれなりに努力されている実態が読み取れた。

- ◆ 取組みの方向性として、「情報交換・意見交換の場を作っていく」とあるが、コロナ禍を制圧できるまでは、「書面」によることを優先したいと考える。
- ◆ コロナ禍という非常時において、自助・互助による地域福祉の取組みを計画通りに進めることは困難な状況であったと思います。そのような状況で取組み内容を工夫された実践事例は大変示唆に富んだものでした。生活支援コーディネーター自身が地域と繋がることから始め、個別課題の把握及び解決に向けた取組み、取組みとは繋がっていない地域住民の方々も包括する地域づくりなど、地域福祉の実現に向けて、皆様と共に役割を果たしていきたいと考えます。

<防犯・防災の取組みについて>

- ◆ 防犯・防災の取組みの評価が低い傾向にあるが、最近、多くの災害があり、私たちの研究でも災害支援に関する課題が多く出されています。若葉区は高齢化率が高く、独居高齢者も多いため災害弱者が多い地区と言えるため、対策の強化が望まれます。

<あんしんケアセンターの役割>

- ◆ 一覧表により各地区の取組み内容が明確に理解できた。あんしんケアセンターも一つの役割を担っていききたい。

<地区部会・自治会・民生委員および行政との連携>

- ◆ 各地区部会が掲げた重点項目中心の報告はやむを得ないが、地区部会と連携せずに独自で幅広く活動している自治会もあり、活動事項（内容）について地区部会と自治会の活動の協議事項と独自事項について、地域振興課の意見も取り入れた検討をし、この理念を全地区部会が共有してはどうか（例：防災・防犯・小学校セーフティーウォッチャー等）。
- ◆ 「令和3年度の取組みの方向性」に「自治会・民生委員などとの定期的な情報共有・意見交換・・・」を入れたことには大いに評価しています。行政の縦割りを超えて「住民の生活・福祉に向き合う自治会。民生委員は福祉の理念を共有し積極的に関与・協力する」という市の方針として対処されることを強く主張します。

議事（3）

「第5期若葉区支え合いのまち推進計画（令和4年度～令和8年度）の策定について」

<防犯・防災の取り組みについて>

◆ 「2 区の課題－（5）防犯・防災に関すること」

両者は内容が全く異質のもので、またそれぞれの対応も異なるが、近年いずれも重要性を増してきている。特に防災においてはコロナ禍の現在においては従来の常識を超えた難しさがある。両者は別々の項目として今後検討していかなければならない。

◆ 「4 5つの仕組み－仕組み3」について

他の4つの仕組みのように「令和4～5年度での取り組みの検討」「令和6年度の策定」では遅すぎると考える。特に防災関連については近年の大災害が多発している状況を見れば一刻の猶予もない。

千葉市では大規模災害の避難所について「避難所運営委員会」がやっと組織されたのみで、具体的な（実質的な）協議は全く進んでいない現状にある。防災については防災担当部局が担い、そのための具体的な業務は鋭意進行していると思うが、上記避難所の実態を見れば心もとなく感じるのは市民の共通した思いでは。大災害時の避難行動のみを考えても高齢者や障害者への対応は、複雑で難しい問題があるが、ましてや今日のようなコロナ禍においてはなおさら厳しい課題があると思う。

そのため、防災については、令和4年度から具体的な行動計画を急ぎ策定し、市全体としても、また地区別にも直ちに実践行動を起こす必要があると考える。

◆ 「2 区の課題－（5）防犯・防災に関すること」は、区のやるべき課題としては特筆事項するのは違和感があり、この対策案件は「地域振興課」の指導の下で「町内自治会」が対応すべき事項と考える。本号は「多くの地域住民に共感の得られる部会活動の推進と、これによる”活動の見える化”」に変更してはどうか。これは「4 5つの仕組み」とリンクすると考えるがどうか。

◆ 中央区では防災マップの対策が進んでおり若葉区も速やかに対応すべき。

防災に関する意識が一点集中で広がりが無い。防火・防災訓練は自主防災組織に限らず、自治会・町内会役員も必須にすべき。

◆ 「2 区の課題」

（2）「情報共有や連携」について、秘匿義務や守秘義務の壁を、どう克服するのか？

（5）「防災マップの作成」既存のものとの関連は？

<コロナ禍での対応>

- ◆ 第4期の実績を踏まえ第5期を実施するには、新型コロナ感染防止を行いながら事業を推進するために地域の実情に合わせた活動に取り組むことが重要ではないか。
- ◆ 新型コロナウイルス感染はまだ続く可能性があるという前提で行事を組まなくてはいけないと思うが、行事（人を集めての行事）は難しいと考える。
- ◆ 第5期計画は前期より2年長い5カ年となった。今期も当初からの新型コロナウイルス感染拡大の影響により、各種活動は自粛せざるを得ない状況となっている。当部会では当面の活動は前期計画の実施を踏まえ、コロナ対策に万全を期しながら、活動できるものから実施している。

第5期計画策定は1年延期し令和3年度中に策定することのだが、やむを得ざる対応と思われる。策定計画の「新しい生活様式」への対応やオンラインの活用、フレイル予防の取入れなど、何れも時代に対応した重要な課題と思う。
- ◆ 「高齢者フレイル予防」に関する内容がもれているため、記載すべき。
- ◆ 当地区部会エリアは特に高齢者が多く、一人暮らし高齢者も増えています。「3日間誰とも話をしなかった」とか「最近声が出なくなった」等がコロナ禍の中、ご意見をお聞きしている。今後、出来る限りの交流の場を提供できるように、今までにない見守り、支え合いを考えながら、更に工夫を重ねて取り組む必要を感じています。

<大学と地域との関わり>

- ◆ 所属する東京情報大学看護学部では地域へ貢献する大学として「ヘルスケアサポート実践研究センター」を立ち上げた。高齢者の介護予防・認知症対策を通じて安心して暮らし続ける街づくりの推進と地域で暮らしを支える看護職の育成を目指すことを目的としている。具体的な活動としてフレイル予防・認知症サポート・災害支援等が含まれ、第5期計画案とリンクしている。地域の皆様と連携した活動が出来れば嬉しい。

<社会福祉法人としての地域との関わり>

- ◆ 社会福祉法人の地域貢献が当学園でも課題となっています。併せて、農福連携ということが全国的に推進されています。例えば耕作放棄地の増加が予想される中、福祉施設と地域の高齢者が協力をして作物を生産する。それをボランティアの方に

参加していただき、高齢者への配食サービス・こども食堂での食事提供に結び付けないものか、少しずつ検討を進めていきたいと考えています。(ただし、コロナ禍が落ち着くのということが前提ではありますが)。

<少子化・高齢化の問題に関して>

◆ 「1 区の現状」

①原則、採用するデータは最新時点のものすべき

②区内の人口は減少傾向にありますが、それと同時に世帯構成の人数は、1人又は2人世帯が70%を越える状況にあります。14地区部会中、6地区部会においては、それぞれ、全体で1.8～1.9人となっています。世帯構成人数の減少傾向が深刻であることにも注目すべきです。

③さらに「同居孤独死」問題が深刻化してきています。「8050問題」は地域住民同士では関わりにくい面がありますので、行政からも積極的に取り組む姿勢なり、施策を打ち出す必要があるのではないかと思います。「2 区の課題」とも関連するのでは。

◆ 少子高齢化社会となり、老老介護の問題が顕在化しています。「仕組み1～5」は一般論。介護の問題も取り上げてはいかがでしょうか。

<その他>

◆ 「基本理念」

(最終行について)「推進する必要があります・・・」は三人称の表現。「・・・していこうとするものです」「・・・していきます」に表現を訂正した方がよい。

◆ 今後、具体的な取組みの策定については、本来は参集して意見交換を行うべき。

その他の意見・要望等

◆ 前任の西村委員の退職により初めて委員を務めさせていただきます。よろしくお願いたします。千葉に来て2年になるが緑に囲まれた環境を気に入っています。地域のことについて分からないことが多々ありますが、微力ながら協力させていただきます。

- ◆ 仕組み（４）、仕組み（５）で障害に関する説明や、情報提供など協力させていただきます。
- ◆ 第５期若葉区支えあいのまち推進計画を拝見いたしました。コロナ禍においても地域関係者と連携して状況に合わせた活動を実施したいと存じます。
- ◆ コロナ禍でのあんしんケアセンターの相談内容も変化しており、別途資料を提供いたします。
- ◆ ２６地区部会では第５期の推進計画の基本理念に基づき目標を定め実施したいと考えている。一部事業の見直しも含め検討したい。
- ◆ コロナ禍で集まるのが難しいが、若葉保健福祉センターには大会議室があるので、１４地区部会の部会長メンバーが集まれる工夫をして欲しい。
 - ・参加人数を減らす（２回に分ける）。
 - ・書面回覧での会議もあるのでは。
- ◆ 当地区部会では今年４月に理事・協力会員を対象に（６１名）にアンケートを行った。質問は次の５項目でした。
 - ①これまでの活動で見直したい点
 - ②新しく取り組みたい活動
 - ③講演会で聴きたいテーマ
 - ④広報誌「社協だより」に掲載してほしい記事・情報
 - ⑤コロナ禍の中でも実施したいこと
 回答（要望）の多かった上位４項は次の通りですが、この中には「議事（３）」の「２ 区の課題」のに掲げられたテーマと同じ主旨のものがある。ご参考までに
 - ① 社協、自治会、民生・児童委員等の組織の垣根を越えた協力
 - ② 理事、役員、ボランティア委員、スタッフの高齢化の対策
 - ③ HPを立ち上げるなどオンラインの活用化
 - ④ 一人暮らしの高齢者が孤独にならない支援
- ◆ 推進協設置要綱の第１条（目的）において「自主性と主体性を持ち積極的に実践するに当たり必要な環境作りを推進するために設置する」また、第２条（所掌事項）には、「今後の取り組み方策について意見交換する」とある。これまでの推進協の活動を観ていると、「地域性を生かした、また部会事情の範囲での活動」の趣が強く、区として活動の一体性が乏しいように思われる。

国民の高齢化と長寿化が進むなかで高齢者福祉の国・県・市の施策も変わっていくが、住民福祉と向き合う地区部会活動は、これらの福祉環境の変化の趣旨について理解を共有して臨むことで、区の活動レベルの向上が期待される。

すなわち、推進協メンバーを対象とした「いま地域福祉活動の求められていること」「地区部会活動の好事例研修会」等々の講習・学習会を年3回ぐらい行い、この中でメンバーが理解を共有し、区としても活動の在り方、報告を探っていく必要があると考える。「井の蛙・・・」から住民の共通利益のための活動方針を模索・共有し、区全体の活動レベルの向上を図れないか、提案したい。「みんなで頑張っている・・・」という連帯感と喜びが共有できる運営を切望します。

- ◆ 高齢者については、介護保険、介護施設のように情報が色々入ってくるが、子供たちの情報がない。推進協議会として何等かの方法を提供していただきたい。又はメンバー全員でアンケート調査でも実施して把握することも可能ではないかと思う。子育て中の若い皆様の手助けが出来れば嬉しい。
- ◆ 委員に防災関係者や日赤関係者が参加すればより地域に根付いた意見が得られる。LINE の使用はどうか。公式アカウントを出せば「まいぶれ」等より使いやすい。連動して自治会の公式アカウントができれば回覧用のチラシやファイルの一斉送信、災害時の情報共有等便利であると感じる。
- ◆ 若葉区老人クラブ連合会の会長として、会員の健康長寿と地域貢献をモットーとして活動しているが、フレイル予防のシニア体操などに一人でも多くの方が参加頂けるよう働きかけ（PR）が大事だと思う。
- ◆ 近年、老人の多くが我が強く頑固な方が多いように思い、一方で大事なことから逃げてしまう。「権利と義務」の理解できる方がこれでいいのかと感じている。とにかく子供たちに恥じぬよう頑張りたい。

II 会議結果

議事（１）「令和２・３年度若葉区支え合いのまち推進協議会正副委員長の互選について」

【結果】 承認３３名 不承認０名 未回答１名

議事（３）「第５期若葉区支え合いのまち推進計画（令和４年度～令和８年度）の策定について」

【結果】 承認３３名 不承認０名 未回答１名

⇒議事（１）、議事（３）ともに承認が過半数を超えたため可決とする。

<その他の意見>

- ◆推進協議会の運営にかかわる適切な諸意見も多く、それらを参考に全員が協力し合い、推進協議会の存在をより意味のあるものになればと思う。
- ◆「２ 区の課題」（２）の２行目の表現が抽象的に感じます。修正案として・・・『地域の横断的なつながりによる活動の一体化を図るため、町内自治会、民生・児童委員、あんしんケアセンター等の団体・組織と情報共有し連携する必要があります』
- ◆今回はやむなく「書面会議」となったが、収穫は、関係者の方の意見を活字で拝見でき、想像以上に有意義な会議になったと思う。「協議体」の在り方としてこの方式もありと感じた。
- ◆防災に関して、各地区の自治会・自主防災会・避難所運営委員会の横の繋がりを取る事がとても大切に感じる。また、地区部会での防災の関する講話等も必要と思います。それに加え避難所運営委員会と福祉避難所の繋がりについて特に協力体制が必要。